

単
元
名

楽器による世界の国々の音楽

教科書出版社名（ 教育芸術社 ）

○ 小学校（ 6 ）年 教科等（ 音楽 ）

○ 「自ら学ぶ子どもの育成」に向けて、この単元で付けたい力

- ・世界の国々の音楽について、関連する本の中から知りたい情報を探し、取り出す。
- ・取り出した情報をもとに簡単にまとめ、他の人に伝える。

○ 学校図書館活用のポイント

- ・調べる国々の音楽や楽器の特徴について書かれている本を用意する。
- ・図書を活用することによって、その国の音楽文化により深く触れることができ、他国の音楽文化を尊重する態度を育てる。

○ 学習の展開（全2時間）

第1次	<ul style="list-style-type: none">・それぞれの国の楽器に関心をもってその音色を聴く。・それぞれの国の楽器の音色を聴き、その特徴や音楽の雰囲気の違いを感じ取る。
第2次	<ul style="list-style-type: none">・本を使って、グループでそれぞれの国の音楽や楽器について調べる。・調べたことをまとめ、他のグループに発表する。・それぞれの国の人々が大切に伝えている音楽のよさを味わって聴く。



【取組みを終えて】

○ 学校図書館を活用した学習における成果と課題

① 成果	・教科書に書かれている解説だけでは情報量が少ないため、本を使ったことで、よりくわしく知ることができた。 ・教科書の観賞用 CD の他に、本に付属している CD の音楽を聴くことができ、よりその国の音楽に親しむことができた。 ・本に書かれていることから、音楽がその国の伝統文化と深く結びついていることがわかった。 ・KJ 法を用いたことで、その国の音楽について、簡単にまとめることができた。
② 課題	・KJ 法が初めてだったので、書き方に慣れていない子どももいた。一人ひとりの考えを出すために効果的な方法なので、他の教科や学級活動などで取り入れていきたい。 ・本からの情報が少ない楽器や音楽もあるので、資料を用意することに苦労した。公共図書館のレファレンスも利用すればよかった。
③ 児童の感想・ふりかえり	・教科書にのっていないことが本から分かってよかった。 ・他の国の楽器についても、調べてみたい。 ・本によって書かれてあることが違うので、何冊も読んで調べることが必要だと思った。

○ 学校図書館を活用した際に注意した点や学習の中で工夫した点について

・時間短縮のため、調べる楽器について書かれている本を用意しておいた。 ・全員に資料が行き渡るように、資料はコピーした。 ・KJ 法に入る前に、ブレインストーミングを行って、意見を出しやすくした。 ・学習のまとめとして、音楽とその国の文化が深くつながっていることをおさえた。
